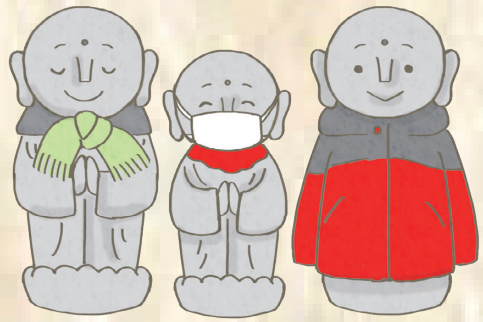


麻生けっぱれ地蔵を追え



「麻生けっぱれ地蔵」をご存じですか？まちの安全・安心と行き交う人々の幸せを見守り、麻生地区で愛されるこの地蔵。なんと、麻生のまちを動き回り、いつでも会えるか分からない、神出鬼没の地蔵なんです。今月は、そんな地蔵の制作者である麻生商店街振興組合の木村弘理事長にお話を伺いました。

けっぱれ（＝頑張れ）と麻生を元気に

2003年ごろから、「さっぼろ雪まつり」に合わせ、商店街を中心に麻生地区でも雪像を設置していました。「その中の一つに地蔵の雪像がありました。期間限定の地蔵というところですね」と懐かしげに語る木村さん。雪像に多くの人が手を合わせていく姿を見て、一年中人々の安全を見守る存在になってほしい、「けっぱれ（＝頑張れ）」と人々を応援したい、と考えた木村さんの思いから、2008年にこの麻生けっぱれ地蔵が生まれました。

より多くの人を見守ってほしい

いろいろな場所を転々とするので、多くの人に見てもらえる。どこにいても分からないというユーモアもある。地蔵が移動する理由から、木村さんの旺盛なサービス精神も垣間見えます。地蔵の制作だけでなく、移動も自らの手で行っている木村さん。「移動は大変ですが、地域の皆さんが喜んでくれるので、やりがいがあります」と笑顔で話します。

麻生の人々に愛される存在に

「設置当初は大変でした。気味悪がる人もいましたね。今では笑い話ですが」とほほ笑む木村さん。現在は、多くの人が地蔵に手を合わせ、中にはマスクやコート、マフラーを付けてくれる人もいるほど。移動のたびに地蔵の写真を撮影したり、絵を描く根強いファンもいると言います。

「けっぱれ地蔵がどんどん麻生に根付いていってうれしいです。自分の手を離れるのは寂しいですが、若い世代にこの地蔵を継承していきたいです」

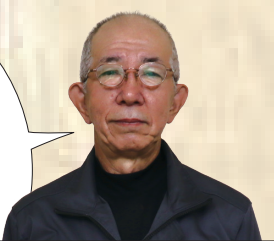
あなたも、麻生けっぱれ地蔵を探してみませんか。



麻生けっぱれ地蔵。木村さんが手作業で制作した。



左の絵は地蔵の熱烈なファンであるKAKU-Gさんが描いたとある場所の地蔵です。どこか分かりますか？



麻生商店街振興組合理事長 木村 弘 さん



地蔵をトラックで移動させる木村さん（左）